

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業	事業実施計画期間	平成29年～平成33年度(5年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	(よしのがわ) 吉野川森林計画区 (徳島県)	事業実施主体	四国森林管理局 徳島森林管理署
事業の概要・目的	<p>吉野川森林計画区は、西部は吉野川の上流、高知県境から、東部は紀伊水道沿岸部までの徳島県北部に位置し、区域面積265千haで森林はその70%の186千haとなっている。一部山間部で若干の差はあるものの、年平均気温は約14℃、平均年間降水量は2,100mmと比較的温暖で林木の生育に適した気候下にある。</p> <p>国有林野は、森林面積の6%にあたる12千haで、吉野川の支流、祖谷川及び穴吹川・貞光川上流の高海拔地域に分布している。人工林率は32%となっており、スギが55%を占めている。</p> <p>人工林の齢級配置は、Ⅷ齢級以上の森林が86%を占めており、地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策や森林資源の循環利用の推進等の観点から、適切な間伐を行いつつ、齢級の平準化に向けた取組が必要な資源状況となっている。天然林は、剣山、三嶺、矢筈山、烏帽子山等周辺に分布している。</p> <p>本事業においては、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備の推進や、このための路網整備を実施し、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備、間伐材等の利用促進に資することを目的とする。</p> <p>また、当該国有林野は、保安林整備臨時措置法により買い入れた林地が80%を占めており、そのほとんどを水源かん養保安林を主体とする保安林に指定するとともに、剣山国定公園に指定されている自然豊かで景観に優れた剣山は、レクリエーションの森「剣山自然休養林」に指定するなど、国土保全、水源の涵養、自然環境の維持及び形成、国民の保健及び休養の場の提供等、公益的機能の発揮にも努めている。</p> <p>主な事業内容 更新面積 57ha ・ 保育面積 969ha 開設延長 6.40km ・ 改良延長 6.10km 総事業費 623,040千円</p>		
費用対効果分析	総便益(B) 5,771,242千円		
	総費用(C) 649,947千円		
	分析結果(B/C) 8.88		
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>森林の持つ多面的機能の発揮するために、適切な森林整備、効率的な森林整備を実施するための路網整備であり、必要性、効率性、有効性が認められる。事業実施に当たっては、当該地域で増加の傾向にあるシカ被害への対策等を考慮されたい。</p>		
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 地球温暖化防止対策や国土保全、水源涵養及び保健休養等の公益的機能の発揮や木材の安定供給等の多面的な機能の高度発揮が求められている地域であり、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性 費用対効果分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備により、森林の有する機能を十分発揮させる有効な事業であると認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備が効率的に計画されていると認められる。</p>		

様式1

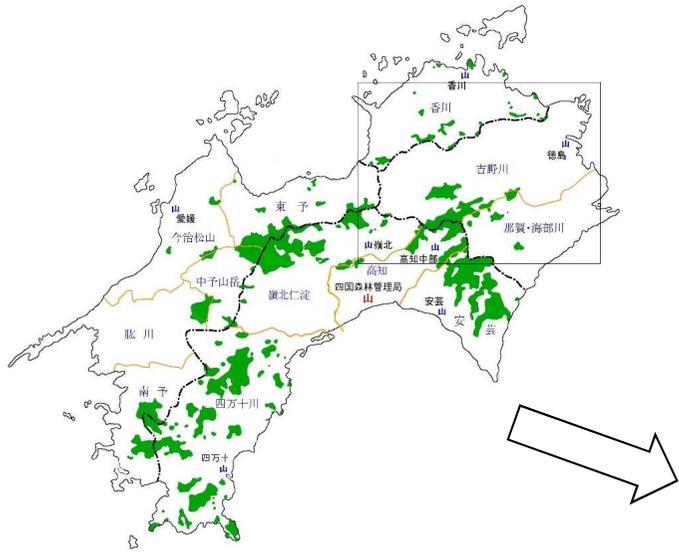
便 益 集 計 表
(森林整備事業) 合計

事業名：森林環境保全整備事業
施行箇所：吉野川森林計画区

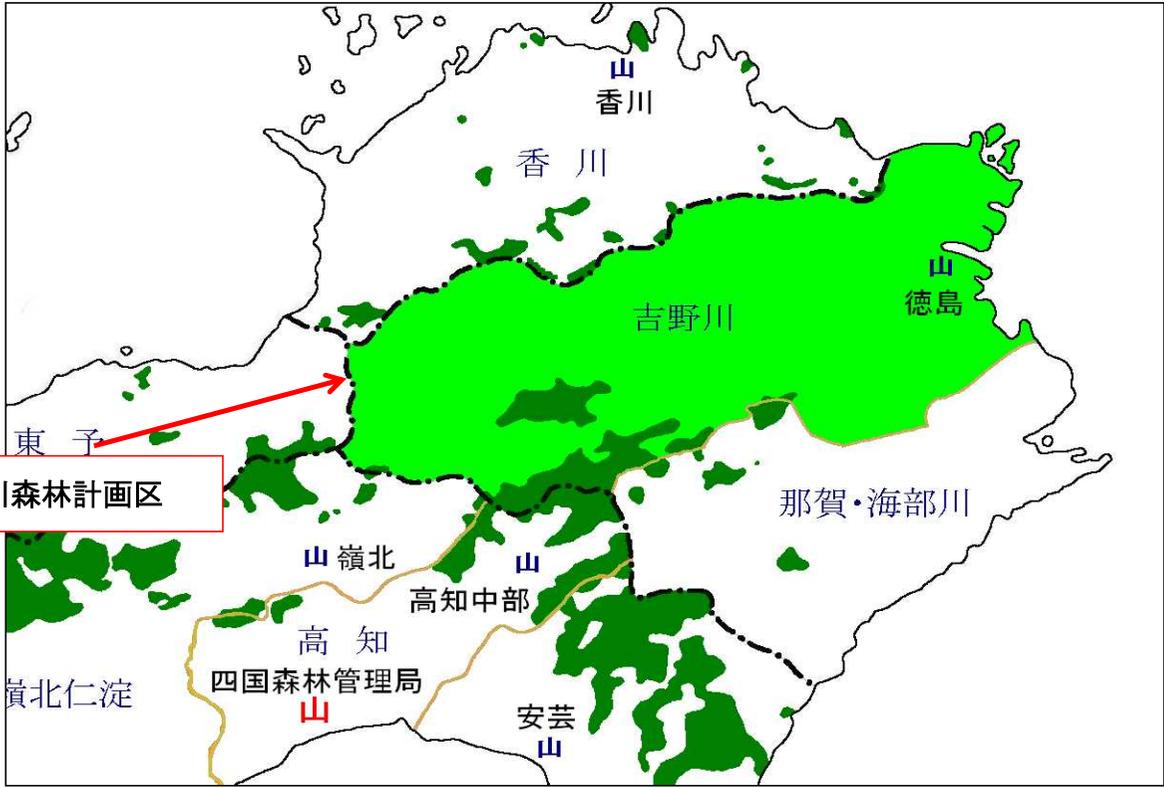
都道府県名：徳島
(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	1,281,003	
	流域貯水便益	488,608	
	水質浄化便益	1,062,426	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,414,103	
環境保全便益	炭素固定便益	253,264	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	463,333	
	木材利用増進便益	602	
	木材生産確保・増進便益	115,280	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	9,698	
	森林整備促進便益	682,925	
総 便 益 (B)		5,771,242	
総 費 用 (C)		649,947	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{5,771,242}{649,947}$		= 8.88

平成28年度 森林環境保全整備 吉野川森林計画区(徳島県) 事業概要図



対策計画区拡大図



吉野川森林計画区